

世界の農業機械・資材トレンド

ヨーロッパの農機実用テストの権威、ドイツ「profi」誌に掲載された世界の農機の最新情報

Tiptoe through a waterlogged harvest オーストラリア

ぬかるみを踏みしめて収穫



オーストラリア東海岸の地形は起伏が多く、特にぬかるんだ農地での収穫作業ではタイヤよりキャタピラーを装備したコンバインが威力を発揮する。精密農業の専門誌『プレジジョンアグリカルチャー』のティム・ニール氏いわく、コンバインに装着された幅の狭いタイヤが収穫作業に深刻な影響を与えているという。

コンバイン用のタイヤの多くは幅800mm以上だが、前輪に500mm幅のタイヤを使っている人々はひどく湿った農地での走行に苦労しているそうだ。

昨年、クイーンズランド州ボンギーン市ダーリング・ダウンズでピーター・バック氏が所有する同機の収穫作業を実際に見たニール氏は、欧州で実績があるテラ・トラック・シリーズの駆動装置を装備したクラス社製コンバイン750型レキシオンの性能に感銘を受けた。「収穫作業の前後に雨が降って地面はかなり軟らかくなり、牧草地にはあちこちに水たまりができていたが、テラ・トラックはためらう様子も見せず大麦を収穫していた」と語った。

レキシオンの重量は約19tで搭載している穀物タンクの積載能力は9tもあることから、総重量を通常タイヤで支えるのはおそらく難しい。

「この駆動装置は積載能力を高め、CTFシステムにも理想的に適合しているから、けん引作業の安定性もさらに向上するでしょう。幅630mmの駆動装置は12mシステムで作業した場合、土壌圧縮を約10%に抑えます。まさに農業経営者が待ち望んでいたものです」とニール氏は説明する。



テラ・トラックを装着したクラス社製コンバインに大いに満足する精密農業の専門家ティム・ニール氏（左）とクイーンズランド州の生産者ピーター・バック氏。

Shop the internet for your next tractor 米国

トラクターの買い替えはインターネットで



毎年、感謝祭（毎年11月第4木曜日）が終わった翌金曜日の未明、何千人もの米国人は気も狂わんばかりに何度も寝返りを打ち、中には一睡もできないまま朝を迎える者もいる。ブラック・フライデーと呼ばれるこの日に全国の小売業者が先を争って一斉にお買い得商品を提供し始めるからだ。

今はそこに、サイバー・マンデーが加わり、店頭でもみくちやにされることもなく、オンライン上には月曜日に特売情報が流されるようにもなった。その規模は決して無視できず、今年、10億ドル以上の商品を販売したと事業主からの発表があった。数多くのネットユーザーが、オンラインショッピングビジネスを小売業の頂点に押し上げたのだ。

ネットユーザーは自分たちが希望するどんな物でも購入できる。もちろん、良質の中古トラクターも買える。例えば米国拠点のサイト（<http://www.saveonline.com>）は、中古のジョンディア社製トラクターを専門に扱っており（米国最大のオークション・サイト）eBayに直結している。

買い手が気に入った製品を見つけると即座にeBayにつながら、オークションに参加できる。ウェブサイトは農業経営者が必要とする農機を正確に低価格で入手できる単純な方法を提供してくれるというわけだ。



従来のトラクターやコンバインから周辺機器まで、例えばサイド・シフト機能付きのライジング社製フォークリフト（写真下）など、機械のオークション・サイトにはあらゆる種類の農機がリストアップされている。



Gasoline, petrol, lpg and... hydrogen
オランダ

ガソリン、天然ガス、そして水素



昨年末、オランダで最初の公共水素ガス供給スタンドがアルンヘム市に設置された。水素を使う燃料電池は最も清潔で永続的な発電方法だと見なされており、ニューホランド社はすでにこの技術でNH₂型トラクターを開発している。

燃料電池の内部で水素と酸素が反応して水蒸気と電気を作り、その電力で車両のモーターを回す。オランダのガス会社は天然ガスから水素を取り出してスタンドで供給するという独特の方法を採用しており、同国のハイ・ギア社が開発を担当したその設備は1基当たり10万ユーロにもなる。

今までアルンヘム市内の特別なスタンドで市バスと小型トラックと乗用車が水素を補給しているが、変わったところでは、所有者がラリー仕様に変更したスバル・インプレッサの姿もある。

このプロジェクトはアルンヘム市があるヘルダーラント州や他の地方自治体からの助成金に頼っている現状だが、さらに水素が入手しやすくなれば急速に利用者が増加し、水素で走る車が普及していくものと予想される。

まだプロジェクトは実験段階であるため水素の価格は未定だが、最も樂觀的な見通しでは消費量が増えるに従ってガソリンに近い値段になるという。



アルンヘム市では水素を取り出して販売する供給スタンドの実験が行なわれている。利用者の中にはラリー仕様のスバル・インプレッサも含まれる。

Getting its tillage act together
南アフリカ

1台で耕作作業をすべてやってのける



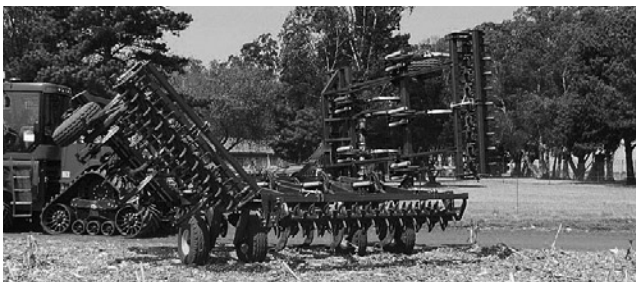
農業工学の専門企業ラジウム・エンジニアリング社は南アフリカ製の複合耕作機械を地元農場で公開した。プレトリア市を拠点として1976年から農機を製作して全国に供給している同社は、気温が高い気候を考慮して耕うん作業で土壌に悪影響を与えず、費用対効果も高い整地機械の「コンボ・リッパ」を市場に出している。

同機の設計は同社製の特別に頑丈な新型のチゼルプラウを中心に、前部に取り付けられたシエアが地表の残さや土塊を粉碎し、チゼル爪とハンマーヘッドが連動して土が付着して塊になるのを防ぐ。さらにその後ろには耕した土壌を平らにして不必要な土塊を砕くためのローラーがある。

同社の説明によると、コンボ・リッパは土壌中の生物多様性を補完するとともに、通気性を高めて健全な微生物環境を作り、作物が必要とする水分を逃がさず土中に蓄えて供給するために設計されている。また、有機物を分解して栄養素の循環を促進させる効果も期待できるといふ。



ディスクプラウと、交互に動くスタンプジャンパーのチゼル爪とツイン・ローラー爪を搭載した巨大なコンボ・リッパは深さ50cmまで耕することができる。



油圧折たたみ式のモデルは15～21個のティンを持ち、広げると幅10.5mになる。後部のツイン・ローラー刃は二重に土を砕いて塊になるのを防ぐ。